京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 3 年目)

1. 研究課題

チベット文明の継承と史的展開の諸相

Aspects of Historical Development and Transmission of the Tibetan Civilization

2. 研究代表者氏名

池田　巧

IKEDA Takumi

3. 研究期間

2018 年 4 月-2021 年 3 月(3 年目)

4. 研究目的

チベット文明は、周辺諸地域との歴史的交流を通じて、宗教・儀礼・言語・社会制度などを広く浸透させ、独自の文明圏を築きあげた。本共同研究班では、交流史の諸相に関する研究成果を学際的に集積し、チベット文明の史的展開を多角的に分析して、ユーラシア世界におけるその位置づけの再評価を行なう。7 世紀以降、チベット・ヒマラヤ地域は周囲の先行文明の影響を受けつつ、独自の文明を展開させてきた。11～12 世紀に仏教を完全に消化して以降、より強固となったチベット文明は周辺文化と交流を繰り返しつつモンゴル～東アジアにその影響力を伸張させた。さらに 20 世紀半ば以降もその発信力は欧米社会までにも影響を与えている。このような発信力と柔軟性をチベット文明は如何に獲得したのか、また周辺諸文明とどのように相克・調和してきたのか。その具体像を探るべく、多様な視点からチベット文明の諸相と継承を学際的に分析する。

From the 7th century, the Tibetan civilization-its unique religions, rituals, languages, and social systems-gradually permeated the neighboring cultural areas via direct communications and trade. Our project compiles the results of interdisciplinary research carried out on the inter-cultural communication among these areas, reviewing and evaluating the aspects of the historical development and expansion of the Tibetan civilization in the Eurasian world. The Tibeto-Himalayan area, while influenced by preceding Asian civilizations, has developed an individual civilization. The Tibet civilization grew stronger after assimilating Buddhism in the 11-12th century, and by communicating with the neighboring cultural

areas, it spread through Mongol to East Asia; Moreover, its influence proved effective even in the modern European world of the late 20th century. How did the Tibetan civilization maintain such power and flexibility? How did the Tibetan civilization come in conflict and how did it attain reconciliation with neighboring civilizations? And how have elements of the Tibetan civilization been transmitted in modern society, even after the country itself ceased to exist? To find answers to such questions, we shall analyze the historical aspects and transmission of the Tibetan civilization from various academic angles.

5. 本年度の研究実施状況

最終年度に当たる本年度は、大きく分けて以下の２つの活動を中心に実施した。

１）本研究班の活動成果を反映した概論『チベットの歴史と社会』(岩尾一史・池田巧［共編］臨川書店）の刊行に向けて、編集会議と必要な修訂作業を継続して行った。

２）研究動向の把握と研究情報交換を目的として Zoom による研究会議を開催した。１）については諸般の事情から内容の大幅な再編と調整の必要があり、編集作業の遅れが出ていたが、今年度で無事に編集作業を終え、年明け年度内に刊行した。 ２）については、班員からの話題提供により、＊チベットの地理情報と地図について　＊チベットに伝わる日本人の起源伝説について　＊チベット語典籍史料における時代区分の意識　といった研究報告と討論を行った。

6.本年度の研究実施内容

2020-10-17 チベット研究の諸問題 チベットの地図製作と地理情報について 発表者 池田巧

2020-11-21 チベット研究の諸問題 チベットにおける日本人の起源伝説について 発表者 池田巧

2020-12-12 チベット研究の諸問題 チベット語典籍史料における時代区分の意識　ー「サキャ派時代」と「パクモドゥ派時代」 発表者 山本明志 大阪国際大学

2021-01-23 チベット研究の諸問題 『チベットの歴史と社会』口絵写真ページの構成について 発表者 池田巧

2021-02-13 チベット研究の諸問題 『チベットの歴史と社会』刊行記念ウェブセミナーの開催計画について 発表者 池田巧

2021-03-19 チベット研究の諸問題 次年度人文研アカデミー：ウェブセミナーの開催方法について 司会 池田巧／柴田秀樹

7. 共同研究会に関連した公表実績

本研究班の研究報告書である岩尾一史・池田 巧［編］『チベットの歴史と社会』上下（臨川書店、2021 年 3 月）を刊行した。

8. 研究班員

所内

池田巧、稲葉穣、中西竜也

学内

熊谷誠慈（こころの未来研究センター）、マルク=アンリ・デロッシュ（総合生存学館）、安田章紀（こころの未来研究センター）、長岡慶（アジア・アフリカ地域研究科）

学外

武内紹人（神戸市外国語大学）、西田愛（神戸市外国語大学）、大川謙作（日本大学）、別所裕介（駒澤大学）、星泉（東京外国語大学）、根本裕史（広島大学）、池尻陽子（関西大学）、海老原志穂（東京外国語大学）、山本明志（大阪国際大学）、小西賢吾（金沢星稜大学）、山本達也（静岡大学）、小野田俊蔵（佛教大学）、三宅伸一郎 （大谷大学）、小松原ゆり（明治大学）、村上大輔（駿河台大学）、井内真帆（神戸市外国語大学）、加納和雄（駒澤大学）、大羽恵美（金沢大学）、大西啓司（龍谷大学）、黒田有誌（龍谷大学）、岩尾一史（龍谷大学）

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数（必須）	受入人数					延べ人数				
		総計	外国人	若手研究者（40歳未満）	若手研究者（35歳以下）	大学院生	総計	外国人	若手研究者（40歳未満）	若手研究者（35歳以下）	大学院生
学内（法人内）											
国立大学		7					28				
		(2)					(10)				
公立大学		3					9				
		(2)					(8)				
私立大学		10					40				
		(2)					(5)				
大学共同利用機関法人											
独立行政法人等公的研究機関											
民間機関											
外国機関											
その他											
計	0	20	0	0	0	0	77	0	0	0	0
		(6)	(0)	(0)	(0)	(0)	(23)	(0)	(0)	(0)	(0)

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

なし

11. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

コロナ禍により対面による研究班の開催が難しくなったため、旅費に相当する予算を研究成果報告書の刊行と寄贈分買取の諸経費に振り替えて充当した。

12. 次年度の研究実施計画

本研究班は最終年度を迎えたが、コロナ禍の影響で、研究報告書の『チベットの歴史と社会』の刊行が遅れ、また企画していた出版記念講演講演会も開催できなかった。そこでC班として１年間の継続延長を行ない、研究報告書『チベットの歴史と社会』出版記念講演会をウェブセミナー形式で開催することを計画している。

13. 次年度の経費

なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究報告書の『チベットの歴史と社会』を関係機関や研究成果を共有すべき個人研究者に寄贈する。また同書の構成に基づき、歴史篇、宗教篇、社会篇、言語篇ごとに執筆者２名を講演者として出版記念連続セミナーを４回にわたり開催したいと考えている。講演会はウェブセミナー形式で行うべく準備を進めている。